

記者発表

平成16年12月15日
国土交通省 延岡河川国道事務所
宮崎県 延岡土木事務所

扱い	新聞： 月 日() : 解禁
	テレビ・ラジオ： 月 日() : 解禁

タイトル

平成16年台風23号における北川激特事業効果の検証について

五ヶ瀬川水系北川では、平成9年台風19号による大規模な浸水被害を受けて、国土交通省・宮崎県により、河川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）が進められ、国土交通省管理区間は平成14年、宮崎県管理区間は平成16年に河川改修が完成終了しました。

今回は、平成9年台風19号と同規模であった平成16年台風23号において、北川激特事業の効果検証を行いました。

その結果、築堤・水門・河道掘削などの事業実施により、熊田地点で水位が約1m低下するなど北川本川による被害が大きく軽減できたことが推察されます。詳細は、別紙のとおりとなっています。

なお、記者発表に関する御質問・御意見等がございましたら、下記問い合わせ先まで御連絡下さい。

問い合わせ

国土交通省 延岡河川国道事務所 河川副所長 高尾 秀敏
調査第一課長 鶴崎 秀樹

電話 0982-31-1155（代表）
0982-31-1191（調査第一課）

宮崎県 延岡土木事務所 河川砂防課長 白賀 宏之
主幹兼河川係長 山分 正人

電話 0982-21-6225（河川砂防課）

五ヶ瀬川水系北川激特事業の効果(直轄区間)

H16年10月(台風23号)

台風23号の気象概要

台風23号は、10月20日という遅い時期に強い勢力(950hpa)を保ったまま九州東岸を通過し、五ヶ瀬川水系北川流域に連続雨量500mmを超える豪雨をもたらした。



国土交通省管理区間における事業効果

平成9年台風19号では、広範囲において内外水による浸水被害が発生したが、激特事業による築堤・水門の完成により今回は、**外水による浸水被害が解消。** [1241戸 88戸(全て内水被害)]

水位低減効果

台風23号出水は、平成9年出水に次ぐ大出水となったが、**激特事業**により熊田地点で**約1mの水位低減効果**があった。



~平成9年台風19号と平成16年台風23号の水位の比較~

浸水家屋数の比較 (H9台風19号とH16台風23号)



友内川水門



追内川水門

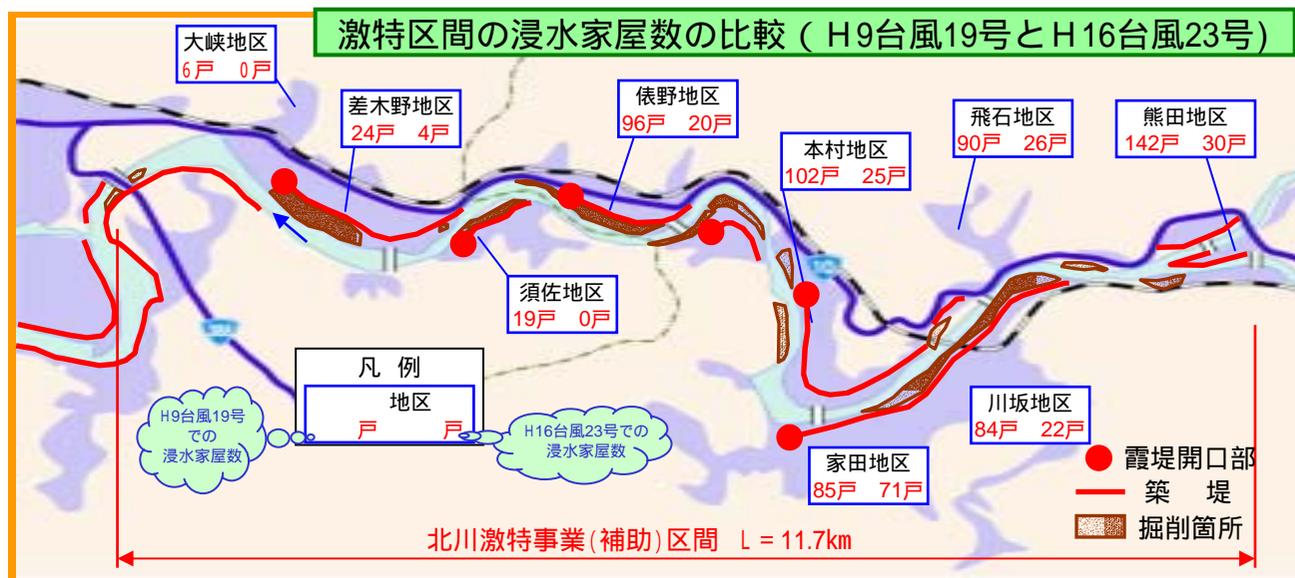
五ヶ瀬川水系北川激特事業の効果(県区間)

H16年10月(台風23号)

宮崎県における事業効果

宮崎県の北川では、平成9年9月の台風19号(最大流量約5,000m³/s)で大規模な浸水被害を受けたが、平成16年に河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)による河川整備が完了したところである。

この激特事業では、河川環境に配慮しつつ、霞堤方式による河川整備を行っている。今回の台風23号では、平成9年の台風19号に匹敵する程の洪水(約4,900m³/s)が発生したが、激特事業の効果による浸水被害の低減が図られた。

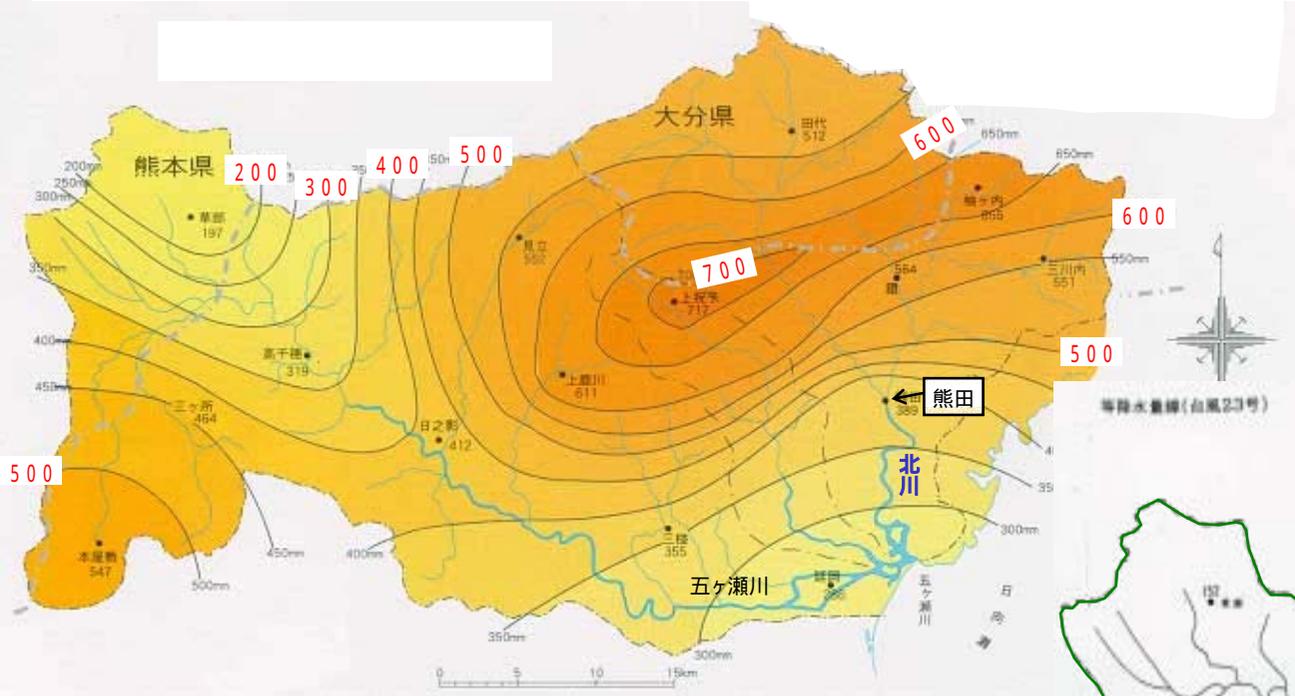


五ヶ瀬川水系北川激特事業の効果(直轄区間)

【参考資料】

平成9年台風19号と平成16年台風23号の等雨量線図

平成9年の台風19号では、連続雨量700mmを超える豪雨となり、北川流域で甚大な被害が発生。また平成16年の台風23号では、10月20日という遅い時期に強い勢力(950hpa)を保ったまま九州東岸を通過し、五ヶ瀬川水系北川流域に連続雨量500mmを超える豪雨をもたらした。

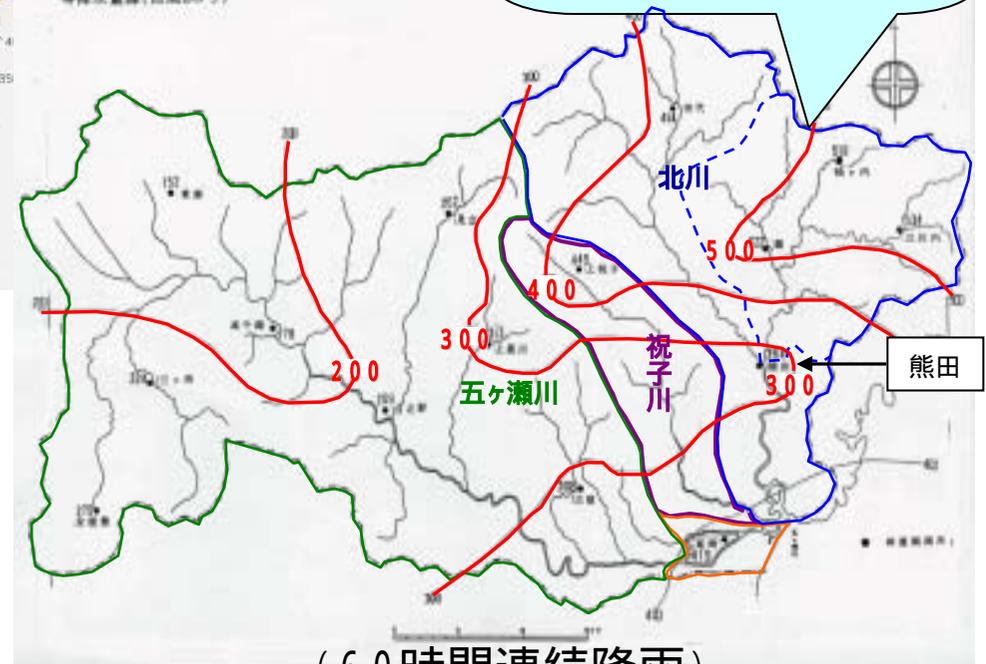


(69時間連続降雨)

平成9年 台風19号

平成16年 台風23号

北川支川小川流域において500mmを超える大雨！！



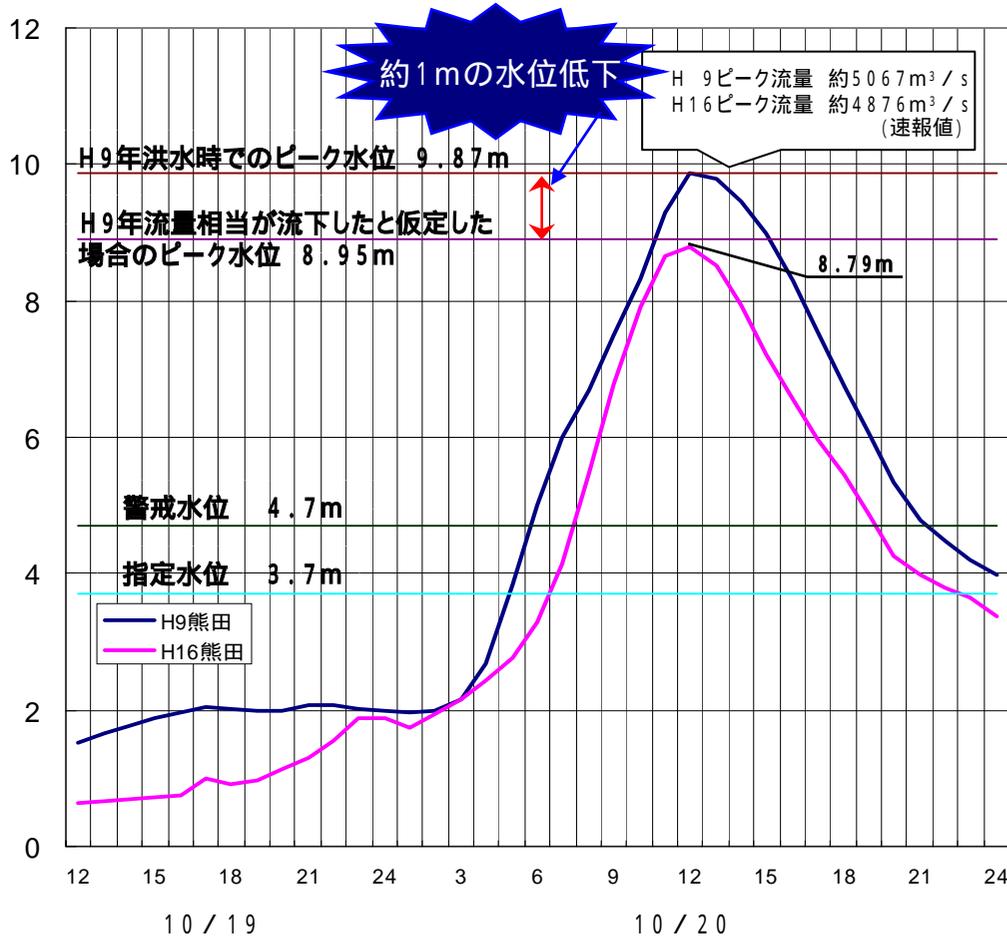
(60時間連続降雨)

五ヶ瀬川水系北川激特事業の効果(直轄区間)

【参考資料】

水位低減効果

台風23号出水は、平成9年出水に次ぐ大出水となったが、**激特事業により約1mの水位低減効果**があった。

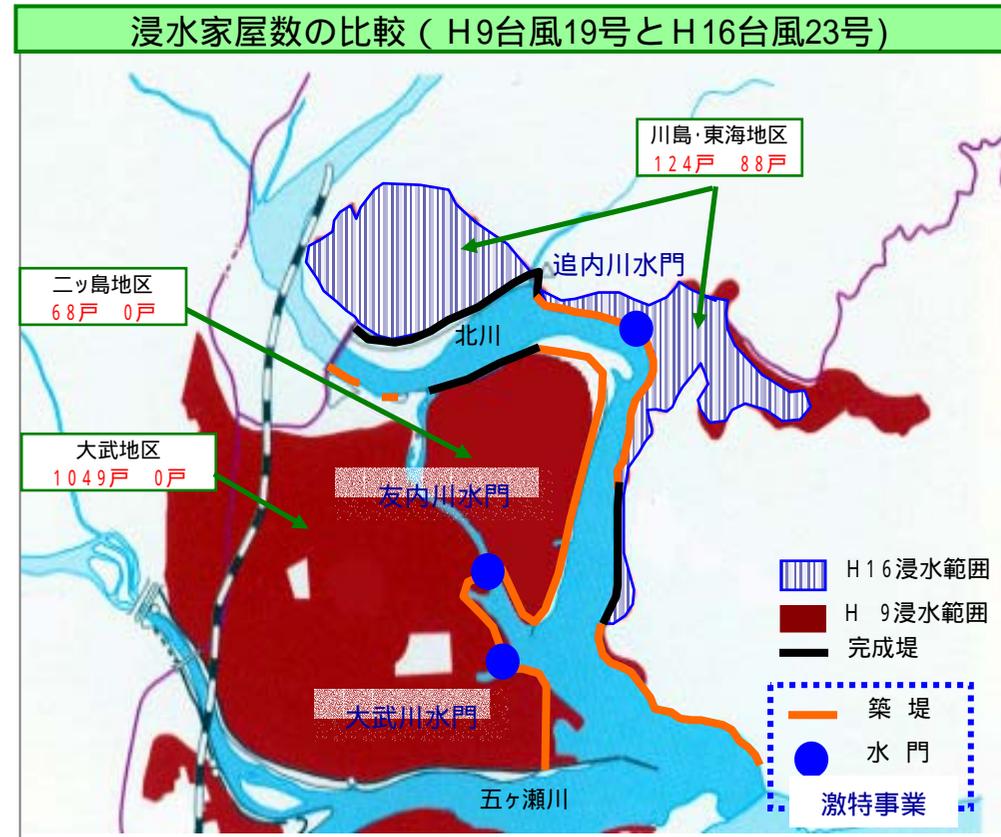


～平成9年台風19号と平成16年台風23号の水位の比較～

国土交通省管理区間における事業効果

平成9年台風19号では、広範囲において内外水による浸水被害が発生したが、激特事業による築堤・水門の完成により今回は、**外水による浸水被害が解消。**

【1241戸 88戸(全て内水被害)】



五ヶ瀬川水系北川激特事業の効果(県区間)

【参考資料】

